プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　令和２年　　10 月　15 日

学生氏名	I.S（学科）	公共社会	（学年）	１年
体 験 先	飯塚市役所　まちづくり推進課			

私は、公務員を志望しているが、なぜ公務員になりたいのかには気づくことができず、ただなんとなく、目指している状態だった。そんな中で、プレ・インターンシップを履修し、体験先が飯塚市役所に決まり、公務員になりたい理由を見つけるチャンスだと考えた。そこで、体験の１週間は、些細なことにも「なぜ」を問いかけてみようと思った。

体験初日は、オリエンテーションと事務補助、買い物困難者への移動販売の視察を体験した。オリエンテーションでは、飯塚市についての説明とともに、飯塚市の抱える問題について話を学んだ。とくに、「若者の自治会加入率を増やすにはどうしたらよいか」という問題については、宿題として、最終日に意見を求められた。移動販売の視察では、実際にどのようなことが大変か、利用者の方や販売員の方に伺うことができ、若者の自治会加入率の問題に対する考えを発展させることができた。体験２日目は、主に事務補助を体験し、窓口業務や資料作成など、行政の業務の具体的なイメージを持つことができた。体験３日目～5 日目は、交流センター建て替え工事についての会議に参加した。市役所の方だけでなく建設業者の方なども交えた会議で、とてもよい経験になった。

体験では、地域の方とふれあったり、地域の方が困っていることなどに耳を傾けた。私は、常に、「なぜ」を自分だけでなく、地域の方にも問いかけることを意識した。ひとつひとつの物事について深く考えることで、いつもは気がつかないことに気づいたり、自分の中で答えを出すこともできた。そのように、「なぜ」と問いかけることを意識することは社会人にとってだけでなく、大学生にとっても必ず必要になるスキルだと強く感じた。

プレ・インターンシップに行く前は、なぜ自分が公務員になりたいのかわからなかった。しかし、今回の体験を通して、その理由を見つけることができた。私は、目の前にいる人を助けたりすることが好きなのだ。体験中、事務補助という形で、業務を手伝ったり、買い物ワゴンや移動販売にいらっしゃったお年寄りの方を助けたりすると、必ず、「ありがとう」と笑って言ってくださった。私はそのたびに、「力になれてよかった」と、幸せな気持ちになった。また、多くの人は退屈に思うような、延々と続く事務作業も、私の場合はとても楽しく続けることができた。このようなことから、私は、公務員に向いているし、公務員になりたかったのだと考える。プレ・インターンシップで、人間として一歩成長することができた。これからも「なぜ」を問いかけることを意識して、大学生活を過ごしたいと思う。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　令和２年　９月９日

学生氏名	O.M　　（学科）　　公共社会学科　　（学年）　１年
体 験 先	株式会社さくらトータルライフ

私は、社会人としてのマナーや一般常識が身についていないことや、年上の方とのコミュニケーションに苦手意識を持っており、将来に対して漠然とした不安を抱いていた。実際に社会に出て体験することで､自分に足りない点や改善しなければいけない点を見つけ、今後の就職活動に活かしたいと思い、プレ・インターンシップを履修した。積極性に欠ける自分を変えたく、新しいことに挑戦しようとも思った。

実際の体験において、受け入れ先の方々は企業の理念を非常に大切にしていることに気が付いた。私はこれまで、理念は形式的に設定された目標に過ぎないと考えていたが、社員の方々は、常に理念を念頭に置いて仕事をしていた。一方、私は、今回参加した目的も“就職活動のため”とは考えていたが、実際将来どのような職業に就きたいか、その先が全く見えていなかった。よって、まずは目標をはっきりさせることが必要だと痛感した。また、社員の方々に同行し、建築関係の方だけでなく市役所の方など、不動産の仕事には多くの人が携わっていることも知った。多業者の方々が一緒に仕事をしているからこそ、良い関係を築く必要がある。そのために、挨拶や笑顔、コミュニケーションが必要だと分かった。挨拶もコミュニケーションの第一歩であり、改めて大切さを認識した。

体験中に何度か､「自信をもって」や､「元気よく」と指摘された。意識しなければ声が小さくなってしまうことは、私自身自覚していたため、改善が必要だと感じていた。最終日、朝礼で司会を任され、その中で「企業理念」について調べたことを発表する機会があった。この時には意識して大きな声で話すことができた。また企業理念については、話すことを大まかにメモしていたが、最低限しか見ないように意識して発表した。緊張もあったため言葉が詰まってしまい、言葉を選ぶのに時間がかかってしまったが、朝礼が終わった後に担当の方から、自分の言葉で伝えようとしているのが分かったとの評価を受けて嬉しかった。この時メモを見ずに話そうとして、私自身まだまだ改善は必要だが、その時の自分の気持ちを素直に話すことができて良かったと思う。

今回のインターンシップを通して、自分の一番の課題は目標を持つことだと感じた。Plan Do Check Action のサイクルについて教えていただき、まず目標を持ち、将来の自分の姿を想像し、そこから今すべきことの計画を立てることが大事だと分かった。その他、いま現在のことだけでなく､将来についても深く考える機会となったし､人前での発表や、自分の意見を言葉にする練習をする必要についても気付かされた。緊張したり、言葉がすぐに出てこなかったりすることがあるため､今後は積極的に発表などの機会を経験したい。５日間、沢山のことを教えていただき、これからの大学生活において新しいことに挑戦していく勇気を得ることできた。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　2020 年　　9 月　14 日

学生氏名	S.M	（学科）社会福祉学科	（学年）1　年
体験先	田川市役所		

大学生活のみでは、社会について十分に学ぶことができると思わなかったし、敬語など社会生活を送る上で必要最低限のマナーを身につけたいと考えたので、私は今回のプレ・インターンシップに参加した。私は、人と話すことが苦手だと感じていたが、2020 年 4 月に入学して以来、新型コロナウイルスの影響で他人と接する機会も減少し、コミュニケーション能力を高めることもなかなかできなかった。プレ・インターンシップで自分のコミュニケーション能力がどれほどなのか認識し、どうすれば対人スキルを向上させられるのかを考える機会になればよいと考えた。

実際に田川市役所で体験をして、初日は慣れない場所に戸惑い、表情が固く挨拶や話す時の声が小さくなっていて、相手が聞き取りづらかったのではないかと反省した。しかし、職員の方がとても優しく接してくださるおかげで、日を追うごとに緊張もほぐれ、表情が柔らかくなり、大きな声も出るようになった。また、様々な業務を体験する中で、私はパソコン業務よりも、体を動かす業務の方が向いていると感じた。しかし、残念ながら私はあまり体力がないので、もっと体力をつける必要があるとも考えた。

今回の体験で、国勢調査という 5 年に 1 度しかない貴重な体験をすることができた。10 月から調査を開始するために早い時期から計画を立て、準備をしていて大変な業務だと思った。調査員に配布する為の資料や道具などを 1 つ 1 つ分け、調査を依頼する施設や病院に行き、地道に行う必要のある業務が多く、市民のために働く大変さについて身をもって知ることができた。

今回のプレ・インターンシップ体験を通して、今の私が社会に出て働くことは難しく、もっと自分を高めていく必要があると感じた。特に私は、対人スキルを身につける必要がある。ある程度顔を合わせきた相手には、スムーズに話すことができるが、実際の職場では初対面の方に対応する必要が多い。初対面の人とも緊張せずに話せるようになる必要がある。

将来どのような職に就くかはまだ明確には決まってはいないが、このスキルは何をするにしても必要になると思う。これまで避けてきた初対面の方との交流を自ら進んで行うなどしていきたい。

ほかにも、敬語をはじめとする様々な社会でのマナーや、パソコンのタイピングなど、仕事で必要とされるスキルを身につける必要がある。今回のプレ・インターンシップで自分が将来何をしたいのか、何ができるのかについて考えることができたので、体験だけで終わらせず、社会福祉の専門分野だけでなく様々な可能性を視野に入れて将来について考えたい。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　2020　年　9　月　3 日

学生氏名	I.K　（学科）　人間形成学科　（学年）　1　年
体験先	田川市石炭・歴史博物館

私は大学生活において、コミュニケーション能力と積極的に行動する姿勢が必要だと感じていた。今回のプレ・インターンシップに参加した目的として、コミュニケーション能力を身に付けることが挙げられる。また、実際に職場で体験することで、ビジネスマナーを学ぶことができると思い履修した。加えて、自分に今何が足りないのか、これからの大学生活で何をしていけばいいのかを考えるきっかけにしようと思ったこと、低学年のうちにインターンシップの練習をしておくことで、就職活動の際に役に立つと思ったことも履修の理由である。

実際に働いて気づいたことは 3 つある。1 つ目は、挨拶をすることで挨拶した方、された方の気持ちがよくなり、全体の雰囲気が良くなることだ。「おはようございます」だけでなく、「お疲れさまです」など、声をかけるだけで、よい雰囲気が作り出されることを実感した。2 つ目は、協調性の大切さだ。例えば、閉館作業は 1 階・2 階と別々に行うのだが 2 階の作業は必ずしもその日の担当でない職員が率先して行っていた。自分の担当以外の業務も、可能な範囲で協力して行うことが重要だということが分かり、それが仕事の効率化にもつながるとも思った。3 つ目は、1 つ 1 つの業務にきちんと向き合う姿勢だ。職員の方々が責任を持って行動しており、1 人ひとりが主体性をもって働くことが重要なのだと感じた。

体験中の気付きをベースに、私も実際に 2 つのことを意識してみた。1 つ目は挨拶だ。私は、今まで挨拶の声が小さく、相手に聞こえていないことがよくあり、挨拶をすることが苦手になっていた。しかし、体験期間中に毎日挨拶を意識して行っていくと、次第に声も大きくなっていき、自然と気持ちも明るくなっていった。2 つ目は主体性だ。職員の方々が責任と自発性を持って行動されている姿を見て、私も微力ながら状況を考えて行動するように努めた。例えば、勾玉を箱に入れる作業中に、職員の方の手が空いていなかったことがあったが、私は自分から手伝いを申し出ることができた。こういった形で、今までよりも状況を判断することに意識を置くようにもなった。

プレ・インターンシップ体験を通して改めて気付いたことは、働く上での「主体性」と「協調性」の重要性である。これからの大学生活において、何か問題が生じたときなど他人任せになるのではなく、自分なりの意見を持って物事に取り組みたい。そして、自分で判断したことに対して責任を持って行動することを意識しようと思う。協調性では、まず集団であるという意識を持ち、他人の問題には関係ないという気持ちを持たないようにしていきたい。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　2020 年　　8 月　31 日

学生氏名	K.M	人間形成学科（学科）	（学年）　1 年
体験先	楠本浩総合会計事務所		

私は人と上手くコミュニケーションを取ることが苦手だった。特に大人と上手く話すことに全く自信がなく、このままではいけないと思ったのでプレ・インターンシップに参加した。事前研修では、自分が職業や自分自身に対してどのような評価をしているのかということや何を重要としているかが分かった。また、電話対応練習やマイキャリ・ハンドブックを読むことで、社会での電話やメールのマナーが学べた。

楠本浩総合会計事務所で 5 日間インターンシップの体験をしたが、そこで私が実感したのが、仕事の大変さと責任の大きさは、大きければ大きいほどやりがいを感じられるということであった。手計算で経営分析をしたり、パソコンで会計帳簿を作成したりするのは大変な上に、それが実際のお客様の会社で分析や会計帳簿を作成したので責任は重大だった。しかし、終わった後、とても達成感を感じた。一方、会計帳簿作成は時間内に終わらせられなかったので悔しかった。社員の方たちは、お客様に自身が経営分析した結果とお客様の意見を照らし合わせながらアドバイスし、お客様のことを第一に考えていた。

楠本浩総合会計事務所様のもとで、社員の方たちとほとんどリモートで対話やディスカッションをした。積極的に自分の意見を述べたり質問できたりしたことに驚いたとともに、社員の方からそのことや私のコメントの着眼点などに対してお褒めの言葉をいただけたので、とても嬉しかった。悔しかったことは、業務を時間内に終わらせられなかったことだ。自分は効率の悪い人間なのかなと落胆していたら、社員の方が「初めてにしては早かったよ。」と励ましてくださったので、何とか立ち直れた。医療分析ではインターンシップ生たちと協力をし、全て終わらせることができた。内容を分担して、協力しながら何かに熱中することはとても楽しいことだと感じた。1 日目はとても緊張したが、いつの間にか気軽にお話できていたのに自分の成長を感じた。

今回の体験で、自分が大人とコミュニケーションを取ることは不得意であると感じていたことは、ただの思い込みであったことに気づいた。実際はディスカッションで、多くの発言をしたり、相手様のお話をリアクションしながら聴いたりすることができた。上手くコミュニケーションを取れていたのではないかと感じた。その一方で、リーダーシップ性には大きく欠けていると感じたので、これからは皆の意見をまとめたり、司会役を買って出たりしようと思った。大学生活で、この先ディスカッションやグループワークのようなものがあると思うので、その際には人に任せようとするのではなく、自分から発言したりまとめたりしようと思う。将来は積極性に溢れた大人になれるように頑張っていきたいと思う。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　令和２年　９月　７日

学生氏名	O.A	（学科）	人間形成	（学年）	１　年
体験先	飯塚商工会議所				

　私は今の自分がどれだけ社会に通用するのか知りたいと思い、プレ・インターンシップに参加した。また、インターンシップに行く準備をしたいと思っていた。
今回実際に飯塚商工会議所で職員の方が働いている姿を見たり、仕事を体験し、商工会議所がどのような事業を行っているのか知ることが出来た。毎日何本も電話がかかってきたり、訪ねてくる方も多くいた。対応をしている職員の方を見ていると地域の方々から信用され、地域の方々は商工会議所の方を頼りにされていることが感じ取れた。私は将来誰かを支えられるような職業に就きたいと考えていたが、今日改めてそういった職業に就きたいと強く思った。
5 日間の主な体験内容は新聞綴じやデータ入力などが主な仕事だった。新聞綴じに関しては回数を積み重ねることで、作業にかかる時間が短くすることが出来た。しかし、データ入力では元々あまりパソコンが得意ではなく、思うように作業を進めることはできなかった。分からないことがあった際、今作業をされていないか、聞いてよいタイミングなのかを判断して質問できたことは良かったと思う。受け入れ先の方もおっしゃっていたように、パソコンを使わない仕事はほぼないと思うので、そのパソコンスキルが不足している事実にきちんと向き合わないといけないと実感した。特に Excel に関して苦手意識があるため就職するまでに授業や課題を進める中で克服していこうと思う。
　行っていたのはほとんど事務作業であったが、データ入力のような作業をきちんとすることで仕事全体が上手く回り、縁の下の力持ちのような存在であると実感した。どの仕事でも、事務作業をおろそかにしてはならないと理解した。どのような仕事でも丁寧に一生懸命行ったことは良かったことだと思う。
私は今回のプレ・インターンシップで「コミュニケーション」が社会で今より一層重要であるということ、自分が思っていなかった場面で必要であることを知った。職場でよく会話をすると思っていなかったため、驚いた。自分にコミュニケーション能力があることに対して今まで特に意識していなかったが、体験を通して誇りを持つことが出来た。体験中では電話対応や来客対応ではなく、事務作業を主に行っていたので実務で活かすことはできなかった。しかし、職員の方に分からないことがあった際、質問できたことは問題解決能力を少し成長させることが出来たのではないかと考える。問題解決能力についてはあまり変化がなかったと思うため今後アルバイトやボランティア参加など日常生活で経験できないことを積み重ねていく中で補っていこうと思う。今後の大学生活そして就職につなげていきたいと考えている。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　2020 年　10 月　8 日

学生氏名	N.Y　　（学科）　人間形成　　（学年）　1　年
体験先	株式会社　楠本浩総合会計事務所

私は、インターンシップに参加する前、自分のストレス対処能力やリーダーシップの低さが課題であると感じていた。中学生の頃までは、学年委員長や学級役員に自ら積極的に立候補して学年やクラスをまとめていたけれど、高校生になって幼い頃のトラウマのフラッシュバックが起こるようになってからは、やる気や自信を失くして段々それらの能力が低下していった。そして、インターンシップ前の社会人基礎力調査でも、消極的な回答が目立っていた。

しかし、低下していたストレス対処能力やリーダーシップは、ストレス社会とも言われている現在の社会において、社会人として求められる能力の一つである。そこで、大学生活の中で早めに身につけておきたいと思い、インターンシップに参加することを決めた。インターンシップは、新型コロナウイルス感染防止のため、5 日間中 4 日間はリモートで行われた。本当にたくさんのことを経験させていただいたが、まず、実際に働いてみて気づいたことは、自分が思っていたよりも会計事務所の業務は、企業訪問等のアクティブなものが多いことだ。社員の方々も明るく生き生きと楽しそうに働いていた。そして、会計事務所のお仕事も含めほとんどの仕事は、人助けであると思った。顧客のニーズに合わせたサポートをするという点において、会計事務所のお仕事の社会的意義があると思う。

次に、インターンシップの中で最も印象に残ったことは、会計帳簿の作成や医療従事者慰労金申請書の作成で、速く正確な仕事ができたことだ。私は、高校の情報処理の授業で周囲についていけなかった経験から、パソコン等の機械類を扱うことに苦手意識があった。今回のインターンシップもリモートで行うということで、怒られるのではないかという不安や心配があったため、速く正確に仕事ができた自分に驚いた。また、最終日に行ったプレゼンの作成やインターンシップ前から期間中の私たち 3 人の連絡においては、リーダーシップを発揮し、他の 2 人の意見と自分の考えをまとめることができた。いずれの点に関しても、担当の方と他の 2 人からお褒めの言葉をいただき、とても嬉しかった。自分の成長も強く感じた。

以上のように、インターンシップを通して、リーダーシップは身についたと思う。ストレス対処能力については、大学生でできた友達に勧められた方法を現在行っている。これから少しずつ、自分なりのストレス発散方法も模索していきたい。さらに、大学生のうちから他の学科、学年の人や自分とは違う考えや趣味を持った人との関わりを持つなどして、新しい自分をさらに発見できるように動いていこうと思う。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　2020 年　9 月　11 日

学生氏名	A.Y	（学科）	看護学科	（学年）	1　年
体験先	飯塚商工会議所				

私がプレ・インターンシップに参加しようと思った理由は３点ある。１点目は、私には積極性が欠けていると感じているため、何事にも積極的に取り組めるように変わりたいと思ったからだ。２点目は、目上の人との会話を通して、看護師として働く際に必要となるコミュニケーション能力をさらに向上させたいと思ったからだ。３点目は、社会人として働く上で必要なマナーなどがまだまだ不足していると考えているため、早めに学び、次のインターンシップで活かしていきたいと思ったからだ。

今回の体験は、新型コロナウイルスの影響により、リモートテレワークで行った。体験した内容は、飯塚商工会議所のホームページの改善提案と飯塚商工会議所の観光事業について考え、発表資料を作成し、飯塚商工会議所の方に提案するというものだった。具体的には、最初に５日間のスケジュールを立て、毎日朝と夕方に飯塚商工会議所の方と報告・連絡・相談を行い、スケジュールを修正して次の日取り組んだ。報告・連絡・相談を行うことで進捗状況を自分自身で確認することができるとともに、飯塚商工会議所の方も確認することができた。さらに今後どのように進めていくべきかを明確にでき、その結果、その後の業務をスムーズに進めることができるようになるため、とても大切であるということに気付いた。また、資料作成では同規模のものを比較するというベンチマークを活用して、２つのパワーポイントを分かりやすくかつ見やすい資料を作るということを特に頑張った。

私は、飯塚商工会議所はどのようなことを行っているか体験するまで詳しくは知らなかった。しかし、今回のプレ・インターンシップで、飯塚商工会議所のホームページを繰り返し見ることで、検定や、講座、経営などの相談、観光などを行っているということを知ることができた。飯塚商工会議所のホームページには修正するとさらに見やすくなる点がたくさんあり、大学生の視点で意見を体験の最後に発表した。発表後には飯塚商工会議所の方に、パワーポイントが分かりやすく、発表が上手だったと褒めていただき、とても嬉しかった。しかし、発表する際にとても緊張してしまい、話すスピードが速くなってしまったということがとても悔しかった。

今回のプレ・インターンシップで、私は最初に掲げた目標のうち、積極性を身に付けるということと、コミュニケーション能力の向上は、いろんな方と話す機会が少なかったためまだ達成できていないことだと思った。また、発表の際にかなり緊張してしまった。そのため、今後の大学生活の中で、積極的に発表し、発表に慣れ、自分の欠点を改善できるように様々なことに取り組んでいこうと思った。今回のプレ・インターンシップで学んだベンチマークや、コミュニケーション能力、働く際のマナーなどの様々なことは、大学生活の間にレポートや授業などで活用しながら磨きをかけ、さらに大学生活だけではなく、将来看護師として働く際に活かしていきたいと強く思った。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　2020 年　9 月 4 日

学生氏名	U.M　（学科）　看護　（学年）　1 年
体験先	福智町図書館・歴史資料館　ふくちのち

私は、プレ・インターンシップにおいて「信頼関係を築くために必要なコミュニケーション力を身につける」ことを目的としていた。なぜなら、コミュニケーション力はもともとあると思っていたが、社会に出て必要とされる力とは違うと感じていたからである。敬語のマナーや態度などを見つめなおし、「ふくちのち」の方や来館者の方々と会話をしたいと思っていた。

今回、残念なことに新型コロナウイルスの影響で実際に現場へ行って体験することができなかった。しかし、「ふくちのち」について話を聞いたり、ポップを作ったりすることを通して学んだことは多くあった。まず、この 5 日間で頑張ったことは、課題の 1 点目であったポップ作りである。今回のポップ作りで、私は「幼児向け」に 1 冊、「小学校低学年向け」に 1 冊作成した。幼児は漢字が読めないため全てひらがなで書いたり、文字を大きくしたり、小学生がどんな言葉に惹かれるのなどを考えることは、想像以上に難しかったがとても楽しかった。良いポップができたと感じているし、「ふくちのち」のホームページに載せていただくことになり、とてもうれしく感じている。

また、今回の体験の課題の 2 点目であった、「ふくちのち」についてのプレゼンでは、最終日にパワーポイントを作成して発表した。初日に館長さんから「ふくちのち」の魅力や取り組みなどを伺ったことに加え、自分でホームページを見て過去のイベント等について調べてパワーポイントでまとめた。この作業を通して、「ふくちのち」の魅力を理解することができたと感じている。さらに、館長さんは「笑顔とあいさつ」を常に心がけているとのことで、このようなアットホームな雰囲気を作ることが地域の人たちから愛されている理由であることを学んだ。

最初にも述べたが、今回は ZOOM による体験になってしまい「ふくちのち」の職員や来館者の方々と関わる時間はほとんどなかったが、館長さんやインターンシップの担当者など、ZOOM を通して会話をさせていただいた人とは、うまくコミュニケーションが取れたと感じている。また、私自身の課題と長所を見つけることができた。まず課題は、計画をしっかり立てて実行することである。ポップ作りもプレゼンテーションの作成も、自分が立てた計画通りに進めることができなかった。私はよく課題なども提出が締切の直前になってしまうことが多いため、計画を立てて、自分に厳しくきちんと実行できるようにしたいと感じた。そのために、携帯のスケジュール機能やリマインダーを活用し、課題の提出日や提出までの作業計画を入力して、課題のし忘れや提出漏れ、無計画に進めることをなくしていきたい。次に、長所は「笑顔」であることを実感した。初日に館長さんからほめていただいたからである。このような状況の中体験ができたことに感謝し、学んだことを忘れず、どんな時でも笑顔で大学生活を送りたい。

プレ・インターンシップ体験報告書

提出日　　2020 年 8 月 19 日

学生氏名	U.M　　（学科）　看護学科　　（学年）１年
体験先	田川市立図書館

私は大学生活で新しいことに挑戦する力を身に着け、自分の強みや弱みをきちんと理解して行動できるようになるために、プレ・インターンシップに参加した。

今回私は急遽リモート体験となり、図書館業務の説明を受けて、いくつか画面を通して見学した。その中で一番大変だと感じた業務は、本の修復作業である。破れている所や外れているページ、シミなどの汚れを確認し、ノリと水の量を調節しながら本を修復していく作業は、時間がかかる上、見落としをしないように気を付けなければいけないため、特に大変な作業だと感じた。また、一番頑張ったことは、若者の図書館利用率向上のためのイベント提案だ。インターネットの普及により若者の活字離れや図書館離れが進み、図書館利用率が低下しているのは全国的な問題となっている。そのため、全国の図書館でも行われている若者利用率向上のための取組を参考に、自分なりに可能な取組を考えた。まず、今までに行った取組を尋ね、その中で一番効果があったのと効果を感じられなかった取組など質問をし、そこから田川市立図書館の立地場所や特徴を活かしながら行うことができる新しいイベントを提案した。自分の知識不足や配慮不足などにより、思っていた反応をもらうことはできなかったが、参考にしたいという言葉をいただけたので、達成感を感じることができた。

私が今回のプレ・インターンシップでお客様と関わったのは、読み聞かせで、1 日目に選書のポイントや服装、持ち方などを教わり、4 日目にリモート画面越しではあったが、子ども達の前で実際に読み聞かせを行った。読み聞かせをする時は、子ども達の表情をうかがいながらすることが大事なのだが、私は子供たちの顔の映し方が分からず、そのまま自分のペースで進めてしまい、思っていたようにはできなかった。しかし、職員の方の読み聞かせを実際に隣で見て、子ども達の視線の集め方や関心の引き方、読み聞かせの本に引き込む力が本当に素晴らしく、全く同じようにはできなかったが、実際に経験し見ることができてよかった。もしまた読み聞かせをする機会があれば、職員の方のようにできるよう、挑戦してみたい。

体験前に受けた事前研修のおかげで、自分が思っている以上に、自分のことをきちんと理解していなかったことが分かった。私は自分のことを過大評価していた部分が多々あり、実際に全くできない所があって悔しかった。特にリーダーシップや対人関係能力で、今回リモート体験ということもあり、発言が重なってしまう事が申し訳なく、自分からコミュニケーションをとるのが少し難しかった。看護師は特にリーダーシップ能力や対人関係能力が優れていないといけないので、サークルやアルバイトで幅広い年代の方と交友関係を深めたい。更にグループ活動などでも、自分から積極的に発言し、まとめられるような存在になるよう、これからの大学生活でたくさんの出会いや実習を通して経験を積み、改善していきたい。